

文芸

投稿は投稿者の住所、電話番号を記入し、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。漢字にはふりがなを記入し、数種類に投稿する場合は別にしてください。広報投稿作品の、他への重複投稿はご遠慮ください。

短歌

末武 有二 選

震災の遺した更地背を押しした 再建目指し一歩踏みだす 寺迫 今村 文字

野の道の轍の真なか雑草根つき阿蘇の風は野面を渡る 安永 守住 孝子

節分の豆まきすれば暗闇に君も鬼ぞと 音返りくる 安永 山下たか子

水仙の香りに春の訪れを この手にせんと雪舞う庭に 安永 川野 光子

若き等は時惜しむごとスマホ見る 老いの我には入れぬ世界 惣領 島田 廣子

冬枯れの凍てつく庭に耐えに耐え 黄色もやさし蠟梅の咲く 安永 福田 圭子

雪の朝新聞入れる音のして「苦勞様」と布団の中で 宮園 金子フム子

腰痛に耐えて早起き塵を出す 朝霜踏めば吐く息白い 小谷 今吉マキ子

書き初めに戌という字を書いてみる 幾年ぶりで筆は震える 馬水 西田 正己

涙目で無垢の打掛見つめてる 亡き妻に似た孫の嫁ぐ日 赤井 増岡 伸禎

吾が病 春一番が連れ去った風伝えてよと もがら皆に 広崎 瀬戸サイ子

地震後の役場対応連載を読めば伝い来 苦惱と決断 広崎 松原まゆみ

お願い 投稿は、一人一首でお願いします。

俳句

河野 全平 選

そろりそろ地をかき分けて露のとう 掃き寄せた落葉くるくる風に舞ふ 新幹線も自動車もだめと雪便り 馬水 西田 正己

降り積もる雪にじゃれ合ふ石たたき ルーペ手に季語のあれこれ日向ぼこ プランターのパンジー震え雪化粧 小谷 今村 文字

噴煙の阿蘇はめでたき雪化粧 琴始め風に流れる田原坂 踏まれても冬芽は確と碑の丘に 田原 辻ヶ峰子

一句鑑賞 お日様を必ず書く子山笑ふ 高田風人子

狂句

田上 富岳 選

頭を下げて 一筆書いてくださいね 頭を下げて 聞いたふりしてよう寝とる 頭を下げて 訳は聞かんで別れてよ 頭を下げて お祓い受くる人の波 頭を下げて 船をこぎよる授業中

混乱して バス間違へて乗らしたつ 混乱して 地震対策後手後手に 混乱して 孫がどこかではぐれたつ 混乱して 破滅招いた判子押し 混乱して 喧嘩最中愛犬おなら

江津 高田美佐子 木山 今吉美美江 馬水 西田 正己 広崎 松原まゆみ 小谷 まさのり 赤井 鈴木 駒 辻の城 岸良真由美 寺迫 左 喜樹 赤井 増岡 醉酔 広崎 瀬戸サイ子

狂句次号の課題「済んだかいた」二十人十色

お知らせ 長年、親しんでいただきました「狂句」は、都合により4月号をもって終了とさせていただきます。5月号からは「川柳」に変更させていただきます。何卒、ご了承をお願いします。引き続き、ご投稿をお待ちしています。

益城の文化財 町文化財保護委員会 砥川 西園寺家住宅

二〇一六年四月に起きた熊本大地震で、益城町の歴史的建造物は大きな被害を受け、解体されました。その一つである西園寺家住宅は、江戸時代に建てられた庄屋クラスの建物です。

主屋は梁間八間、桁行十間で、敷地条件から西向きに建っています。平面は南側に大きな「土間」、土間に接して西側から十畳の「おもて」、八畳の「中の間」「茶の間」が並び、「おもて」の北側に四畳の「玄関」、その北に八畳の「仏間」、その東に十二畳の床・棚・付書院を備えた「座敷」が設けられています。「座敷」「縁」便所は安政四(一八五七)年に増築されたものです。

肥後藩では、農家の建築に禁令が決められており、三間以上の間口の建物は禁止されていました。そのため、豪農の家は二つの棟を作り